

伊賀流
お薬手帳
活用術

「お薬手帳」を活用した

支援が必要な

在宅患者へのサポート事業

～住み慣れた我が家で安心して暮らし続けるために～

サポート事業の概要

皆さんが住み慣れた我が家で安心して暮らしていけるよう、専門職と市が連携し、患者さんやその家族もネットワークの一員となった、「お薬手帳を活用した在宅患者の薬の管理のしくみづくり」をすすめています。

在宅で医療を受ける皆さんをサポートするため、現在「伊賀市オリジナルお薬手帳カバー」の配布と合わせて、患者さんの緊急連絡先や、医療や介護の事業所名、専門職による気づきのメモなどが記入できる「情報カード」をお薬手帳カバーに入れる取り組みを行っています。

また、専門職間で患者さんの情報を共有するための「多職種連携のための連絡票」を作成し、さらなるサポートにつながる取り組みもすすめています。

お薬手帳はいつも携帯！

お薬手帳は、患者さんをサポートするための大切な情報です。

この取り組みをより良いものにするためにも、お薬手帳は1冊にまとめ、アレルギーや薬による副作用などがあれば記入し、病院や診療所を受診する時はこちらも、普段外出する時にも携帯してください。

お薬手帳を提示しましょう！

処方された薬の記録と合わせて、お薬手帳に記入された専門職によるアドバイスや情報カードを基に、医療や福祉、介護の関係者で情報を共有

すること、より良い支援につなげることができます。病院や診療所、薬局へ行った際にはお薬手帳を忘れずに提示しましょう。

お薬手帳カバーをご活用ください

■お薬手帳カバーに入れるもの

- ・お薬手帳
- ・カード型健康保険証、診察券
- ・情報カード(緊急連絡先や関わりのある医療・介護事業所名などを記載したもの) など

お薬手帳はあなたの健康を守る武器の一つです

救急での受診時など、意識のない状態でも、お薬手帳があれば、既往歴、加療中の疾患などを医師が推察する武器の一つになります。

投薬があった時には処方シールの貼付を忘れないようにし、普段から携帯してください。

また、二代目のお薬手帳カバーは芭蕉さんのシルエットのデザインとなりました。

お薬手帳カバーに入れる情報カードは、医療や福祉、介護の関係者で患者さんの状態を把握するツールとして大切なものです。家族の人も普段の気づきを記入してください。



伊賀医師会 猪木 達 会長

専門職のみなさんの声 お薬手帳カバーや 情報共有ツールが より良い支援につながります



薬剤師

複数の医療機関とスムーズな
情報共有ができました！

専門職同士で情報を共有するための「多職種連携のための連絡票」を使うことで、院内処方
の医師と院外処方の医院の医師双方に情報共有
し、重複処方を解消することができました。

訪問 看護師

血圧などを記録することで
診察がスムーズになりました！

訪問看護で測定した血圧や血糖値を1カ月分
記入したお薬手帳を医師や薬剤師が見ることで、
現在の詳しい状況を把握してもらえるようになり
ました。

訪問 リハビリ

「どこにしまったかな？」
が減りました！

お薬手帳カバーにいろいろな情報が集約され
たので、病気や体調の確認が以前に比べてしや
すくなりました。

利用者さんからもお薬手帳など受診の記録を
探す手間が減り、「どこにしまったかな？」が
減ったとの声を聞きます。

ケアマネ ジャー

タイムリーに介護保険サービスの
調整ができました！

在宅介護の支援計画（ケアプラン）に、訪問
看護やデイケア（通所リハビリテーション）な
どの医療系サービスを位置付けるには主治医と
の連携が不可欠です。「多職種連携のための連
絡票」の活用で、やりとりがしやすくなり、タ
イムリーに必要なサービスの調整ができました。

ケアマネ ジャー

本人や家族との会話が
はずみました！

お薬手帳カバーがあることで、お薬手帳・健
康保険証・介護保険証・診察券などを紛失する
ことなく管理されるようになりました。

ケアマネジャーが自宅訪問した際も、気軽に
見ることができ、受診の間隔や受診先、処方
の変更などが確認しやすく、本人や家族との会
話がはずむきっかけとなりました。緊急時にも多
くの場面で役立っています。



▲三代目のお薬手帳カバーと情報カード

【問い合わせ】

医療福祉政策課

☎22-9705 FAX22-9673

✉ iryoufukushi@city.iga.lg.jp

